

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
いちご (普通・地床)	人 2	いちご普通・地床		a	1. 品種「ゆめのか」 2. 地床栽培 3. 炭酸ガス施用
		経営耕地面積	畑 10 a 水田 140 a	10	
経営目標	1 農業総収入	6,239	千円	4 1日当たり農業所得	8,651 円
	2 農業経営費	4,127	千円	5 1人当たり年間労働時間	977 時間
	3 農業所得	2,112	千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数 量	型式・構造・能力	所 有 割 合	取得価格	耐 用 年 間 償 却 額	
						年 数	千 円
建 物・ 施 設	ビニールハウス	1	連棟補強 I 型(HK)ハウス 1,000㎡	1	10,752	14	384
	高設育苗施設	1	一式 1,000㎡対応分	1	1,818	7	130
	重油タンク	1		1	239	7	17
	防油堤	1		1	172	25	7
	電照施設	1	電照施設一式	1	1,436	7	103
	予冷库	1	1.5坪	1	774	7	55
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 70㎡	1	6,616	24	276
	選果作業室	1	選果室 15㎡	1	1,418	24	59
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,890	24	79
		計				25,115	
農 機 具	トラック	1	軽トラック	1	1,324	4	166
	動力噴霧機	1	可搬式、防除タンク(500L)	1	184	7	13
	トラクター	100%	20PS	100%	1,560	7	111
	管理機	100%	6.2PS	100%	278	7	20
	加温機(75,000kcal(30タイプ) 多段サーモ含む)	1	100,000kcal/h	1	1,588	7	113
	炭酸ガス発生装置	1	1600~1800㎡用	1	524	7	37
	循環扇	1	一式 1,000㎡	1	286	7	20
	モニタリング装置	1	一式	1	159	7	11
		計				5,903	

3. 技術体系(いちご 普通)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗) 親株植付け		11月上 ～11月下	高設育苗 施設一式	2	12	24		雨よけ点滴高設育苗 プランタ使用 3株/1プランタ 専用親株 1000株 333鉢×3株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 IB化成5粒/株 追肥 被覆燐硝酸加里 (40日)7～8g/株
親株管理	ランナー配置 追肥 病害虫防除	11月上～ 6月中	かん水施設	2 1 1	35 3 3	70 3 3		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
鉢上げ	ポット準備 鉢上げ ランナー切断	5月上	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う
育苗ポット 管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ～8月上	かん水施設	2	81	161	置き肥	N成分 100～200mg/ポット
病害虫防除	耕種の防除	2月下 ～9月中	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
(本ぼ) 耕うん 整地	耕起整地	8月中	トラクタ	1	4	4	堆肥 3t 石灰質資材 100kg	
土壤消毒		8月中	トラクタ	2	4	8		県病害虫防除基準
施肥	基肥施用 追肥施用	8月下 10月上 ～4月	トラック かん水施設	2 2	2 1	4 2		全面施用 基肥成分量 N 16kg P2O5 14kg K2O 10kg 追肥 被覆燐硝酸加里 (140日タイプ)
定植準備	うね立て かん水施設 設置	8月下 9月中	管理機 トラック	2 2	4 3	8 6		

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
定植		9月中 ～下	トラック	2	29	58		10a当たり8,300株 栽植様式(2条)内成り うね幅:120cm 株 間: 20cm
マルチ		10月中 ～下		2	12	24	黒ホリフィルム 長さ700m 0.02mm×150cm	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引 摘葉、玉だし 摘果	10月中 ～3月下		2 2 2	6 34 60	12 68 120		腋芽は年内1～2芽程度に整理 する。 摘果も大玉生産、品質向上のため に行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
温度管理	保温、換気 炭酸ガス施用 下温処理	11月上 ～3月中 3月中～	トラック 加温機 動力噴霧機	1	77	77		二重カーテン設置 日中 午前 25～28℃ 午後 20～22℃ 夜間 5℃以上 下温処理 遮光資材、寒冷紗
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	26	26		定植直後を中心に開花までは 十分なかん水を行う
病虫害 防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～5月下	トラック	3.5	284	992		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早朝どりを行う
後かたづけ		7月上	トラック トラクタ	2	10	20		
計						1953		

